

CM7 テーマ：緩和系研究でグラントを取るコツ

# 研究審査側からみた研究費申請の技術

東北大学大学院医学系研究科保健学専攻  
緩和ケア看護学分野

宮下光令

創造性 行動力 主体性

東北大学医学部保健学科看護学専攻



TOHOKU  
UNIVERSITY

# 研究費関係の経歴

## ■ 研究費獲得

- 科学研究費：基盤B（4回：相当を含む）、挑戦的・萌芽（4回）、基盤C（1回）、若手B・奨励（4回）
- 厚労科研（3回）

## ■ 研究費審査

- 科学研究費補助金（5年）
- 日本緩和医療学会研究助成金（委員長2年を含め11年）
- 他の学会

## ■ その他

- 大学の研究企画室員として、学外応募研究・学内研究費の審査、科研費応募指導、分野学生の研究費獲得指導

# サクッと落とす、ダメな研究計画書の印象

- 「この研究費で出すものではない」
- 「研究計画が具体的でない、緻密でない」
  - 一通りのお作法がなっていない
  - テーマはいいけど、実現できないだろうな・・・
  - これから考えるつもりなんだろうね・・・じゃあ、無理よ
- 「お金の使い方がおかしい」

# 研究費申請のポイント

## ■ 以下をしっかりとアピールする

- 要求に沿う
- 分かりやすさ
- 緻密さ
- 成果が期待できるか
- 熱意

## ■ 能力があることを示す

- 「こいつは研究経験が少ないな」と思わせない

# 要求に沿う

創造性 行動力 主体性

東北大学医学部保健学科看護学専攻



TOHOKU  
UNIVERSITY

# 研究費の目的をよく理解していることを示す

## ■ 研究費の要項の「目的」を熟読する

- ここで使われている言葉と同じ言葉を使う
- 「先駆的」「独創的」「ホスピス・緩和ケア」
- 文部科研はある程度夢を描く
- 厚労科研は社会的課題を確実に解決する
- 民間は研究費による

## ■ 求められていることに忠実に

- 求められている「言葉」を使う

# 科学研究費（文科）

## 1 研究目的及び研究方法、応募者の研究遂行能力←

本研究種目は審査区分表の「中区分」で審査されます。記述に当たっては広い分野構成で多角的視点から審査が行われることに注意すること。←

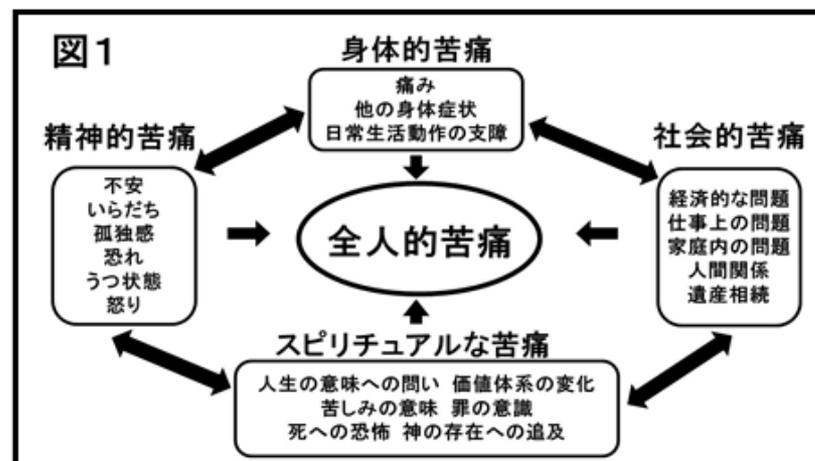
本欄には、←

- ① 本研究の目的←
- ② その研究目的を達成するための研究方法（研究体制（「研究組織」にある研究者及び研究協力者のそれぞれの役割）を含む）←
- ③ 応募者の研究遂行能力（これまでの研究活動の具体的な内容等。必要に応じて今回の研究構想に直接関係しないものを含めてもよい。）←

について、2頁以内で焦点を絞って具体的かつ明確に記述すること。←

### (1) 本研究の目的←

【全人的苦痛の評価の必要性】がん患者は痛みなどの身体的苦痛、不安や抑うつなどの精神的苦痛、仕事や家庭の問題などの社会的苦痛、生きる意味や死の恐怖などのスピリチュアルな苦痛といった相互に関連する苦痛を抱えている（WHO, 2002）。がん患者を理解し支援するためには、それらの**全人的苦痛を抱えた1人の人間として捉える必要がある**（図1）。←



創造性 行動力 主体性

# 日本緩和医療学会 研究助成

## ■ 1. 趣旨

- これまで本学会は各種のガイドラインなどを発行してきました。今後、緩和医療の質をさらに高めてゆくために、**ガイドラインにおいてエビデンスのない領域やエビデンスレベルの低い領域を中心に、ガイドラインや学会の活動に寄与する課題**の研究助成を公募し、学術委員会で審査し、学会として取り組むに相応しい研究を選定し研究費を助成します。

## ■ 2. 研究課題

- 公募する研究は**ガイドライン等においてエビデンスのない領域やエビデンスレベルの低い領域における検証的・探索的な臨床試験・介入研究、ガイドラインや学会の活動に寄与する観察研究・調査研究**です。なお、採択にあたっては**学会のガイドラインや学会の活動に対する寄与とともに、研究課題の重要性・公益性・緊急性**を考慮します

創造性 行動力 主体性

東北大学医学部保健学科看護学専攻



TOHOKU  
UNIVERSITY

# 分かりやすさ

**創造性 行動力 主体性**

東北大学医学部保健学科看護学専攻



TOHOKU  
UNIVERSITY

# 目的の明確さ

- 目的ははっきり 1 行で書く
- 目的の書き方（論文のイントロと同じ）
  - このテーマが重要なこと
  - いままで何が分かっているか
  - いままでの研究の限界は何か
  - **それをどうやって克服するか（これがこの研究）**
    - **私のアイデアは・・・**
    - **仮説（1）、仮説（2）とか**
  - 研究が成功すれば、どのように役に立つか
- 目的の重要さを示す
  - JAMAとかNEJMとかの論文を適度に引用

# 図表を効果的に使う

- 審査員は本文はまともに読まないと思って作成する
- 図表だけ追えば全体像がわかるようにする
- ゴシックフォントや下線部などを追えば全体像が分かるようにする
  - 私はベースは明朝、強調部は太ゴシック+下線など
  - 文章が長い場合はセクションに分ける
  - 強調、下線部が多すぎるのもダメ

# 審査員は自分の研究分野の知識がないと思つて つくる

- 審査員は素人だと思つう
- とくに、図表や強調する部分は素人でもわかるようにする

# 私がよく入れる図表

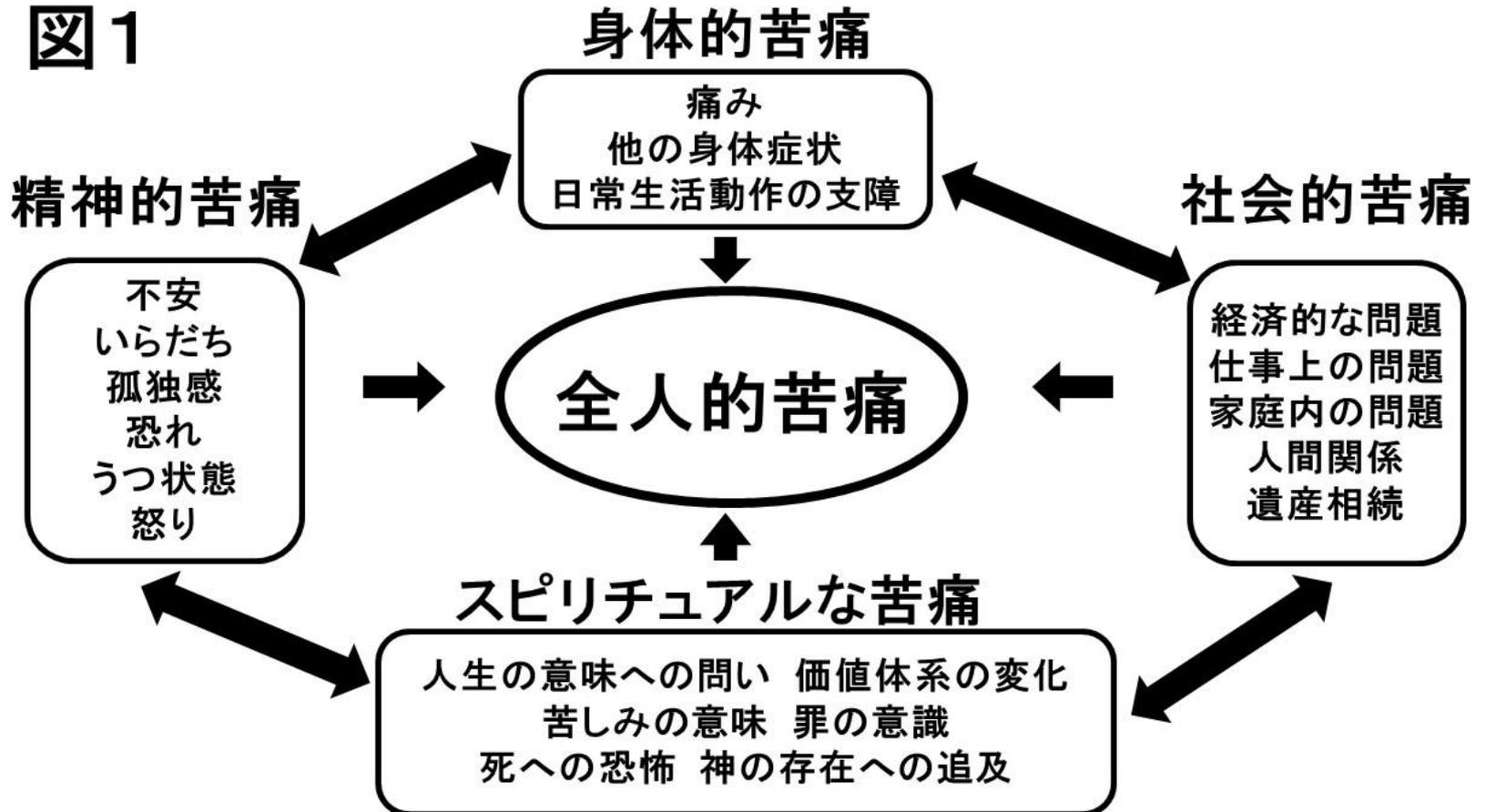
- 研究の臨床におけるイメージ
- 研究の全体像
  - 現状とその限界
  - 今回の研究
  - 今後
- 研究で中心になるツール
- 研究がどう役に立つか
- 工程表
- 研究組織

# 実際にどう図表を入れるか

自然言語処理を用いた身体的・心理的・社会的・スピ  
リチュアルな苦痛の評価

# この研究だと、ここから説明する必要がある

図1



# 研究の全体像

## 図3 研究の全体像

現状

- 身体的苦痛の有無を評価するシステムの開発



本研究

- 精神的苦痛・社会的苦痛・スピリチュアルな苦痛の評価
- 身体的苦痛も含め、評価精度の向上
- 入院期間全体を通しての苦痛の有無だけでなく、リアルタイムに苦痛の程度を評価

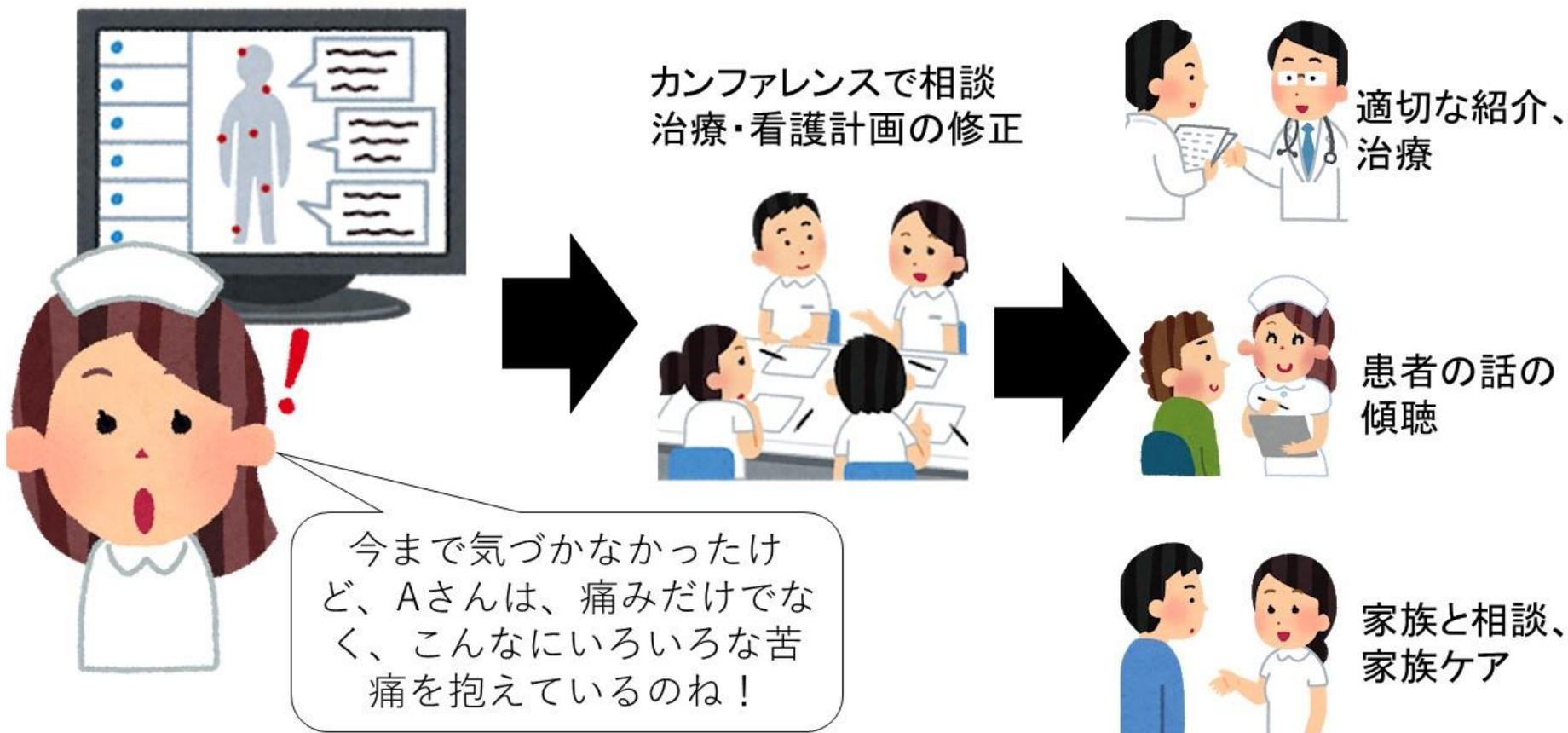


将来の  
応用

- 苦痛のリアルタイムな評価による、適切な医療・看護介入、紹介
- 医療の質の評価などへの応用

# 研究をどう役に立つかのイメージ

## 図2 リアルタイムな評価を治療・ケアに反映させる



創造性 行動力 主体性

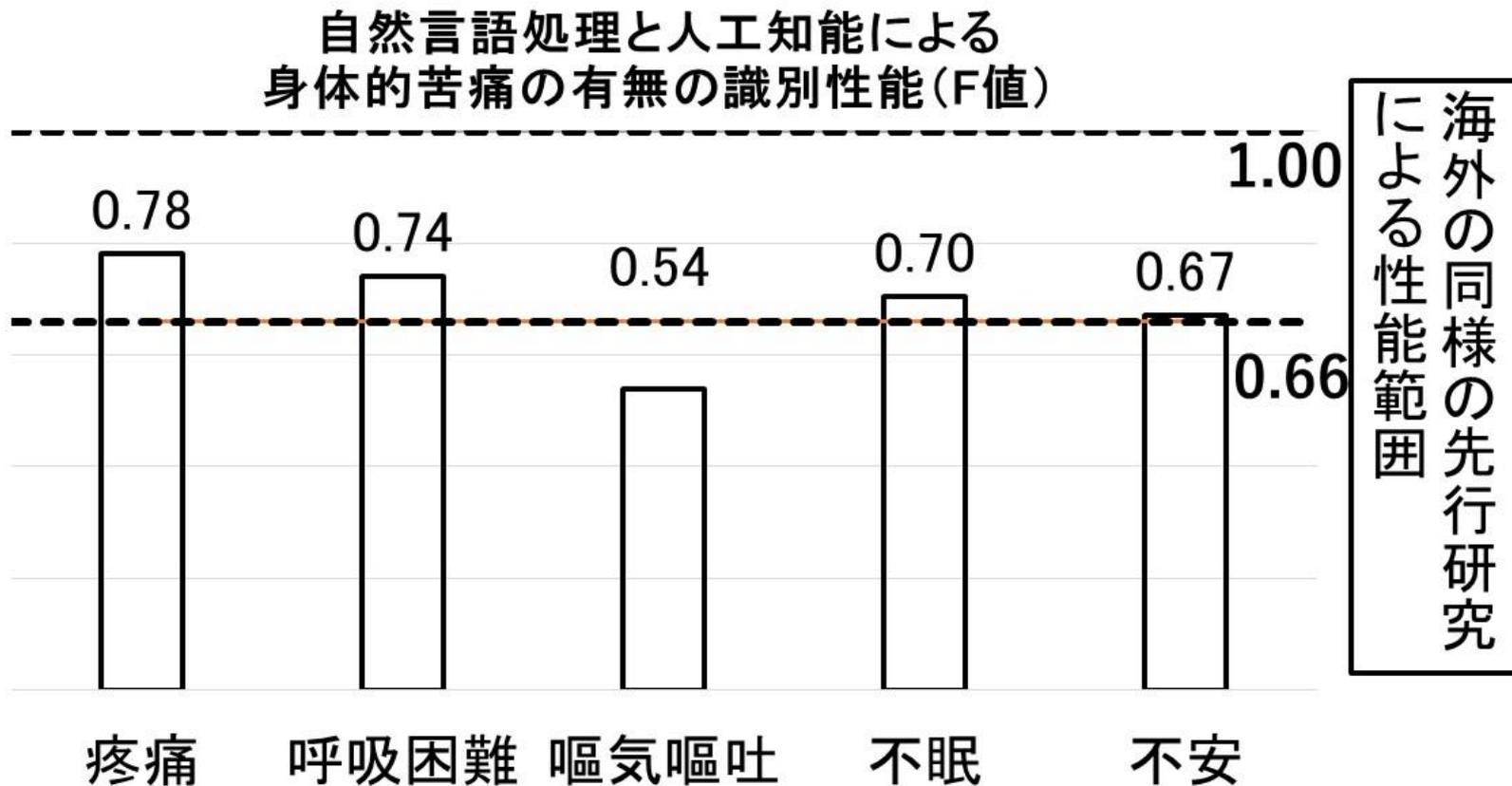
東北大学医学部保健学科看護学専攻



TOHOKU  
UNIVERSITY

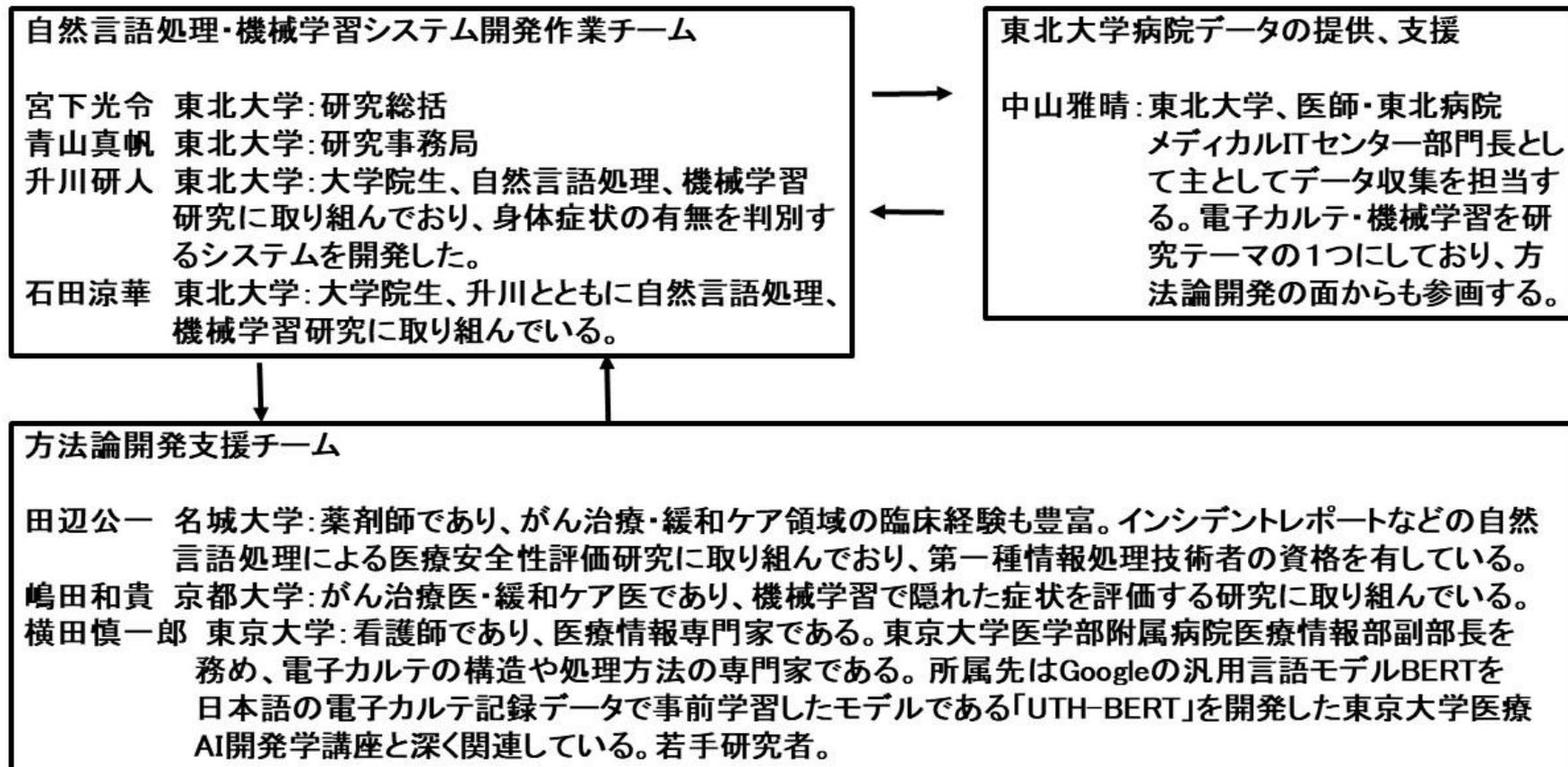
# 研究の準備状況

## 図5 現時点で得られている成果



# 強い研究チームであること

## 図4 研究組織



# 別研究ですが、こんなのを入れることも

## 図2 緩和ケアのQI測定の困難と解決策

現状

- 医療レセプトによるQIでは、患者の主観的な症状の程度やコミュニケーションなどの測定ができない



困難

- 入院期間全ての診療録の記載事項(経過表、薬剤、看護記録等)を調査する必要がある
- 測定に膨大な時間がかかり、多施設調査は不可能



解決策

- 電子カルテと自然言語処理、人工知能の活用

# 緻密さ

創造性 行動力 主体性

東北大学医学部保健学科看護学専攻



TOHOKU  
UNIVERSITY

# 研究計画が緻密であること

- 研究計画はできるだけ具体的に、具体的に
  - 研究計画そんなに真面目に読まれないこともある。ただし、「緻密に作成したんだな」という印象を与えることは重要
- 「後で考える」は弱い
  - 「インタビューしてからアンケートを考える」はダメ
  - 「ニーズ調査をしてから、介入内容を考える」はダメ
  - 現時点での案ははっきり書いておく
- 細部を緻密に
  - リクルートの方法、症例数設定の根拠、評価尺度
  - 細部までよく練られているなという印象を与える

# 準備状況、実現可能性が高いことを書く

- いままで「自分は」ここまで準備してきた、と書く
  - 自分の研究の引用
- 専門家が集まった強いチームであることを強調する
- 自分の研究業績、メンバーの研究業績を書く
  - 自分の業績が足りなければメンバーに補ってもらう
  - IFも書いたほうがいい。低くても書いたほうがいいと思う
  - 業績に学会発表とかはできるだけ入れない。舐められる
- 対象施設などはできるだけ具体的に入れる
- よく勉強して、ここまで準備して、計画もきっちり立てて、**あとはお金だけもらえれば実現できます！**と書く

# 実現性を緻密に考えている

## ■ 予定通り進まなかったときの対応

- いろいろなパターンがあるが、審査員が気になりそうなことはちゃんと抑えて書いてある
- 「ここまで考えているのか！」と思わせる

## ■ パイロットスタディ

- 介入研究などではパイロットは必須だと思う
- それを飛ばしているようでは、実現可能性は低いなと思う

# きれいなフォーマット

- フォーマットに沿っていないのは論外
- 文字間隔、行間隔などを綺麗に
- フォントやトーンの統一
  - 私はWORDの基本フォーマットをいじらずに使います
  - それが一番無難で大衆受けすると思います
- これが出来ていないと **「この人はきっと研究も雑なんだな、成果を挙げられないだろうな」** という印象を持つ

# 適切な研究費の使途

- 「これは絶対要るよね」というものに絞る
- 書く場所があれば、それが必要な理由を書く
- 研究費で落とされるパターン
  - **旅費の割合が多い**（旅費がダメなのではない）
  - 海外旅行行きたいだけ？みたいな研究申請は結構ある
  - パソコンなどこの研究以外にも使うもの
  - 「絶対こんな額いらないでしょ」も落とされる（既存データの分析で500万とか）
- 研究費は計画書通りに執行しなくてはならないものと、そうでないものがあるので事前によく確認する

# 成果が期待できるか、熱意

創造性 行動力 主体性

東北大学医学部保健学科看護学専攻



TOHOKU  
UNIVERSITY

# 成果が期待できるか

## ■ 成果が期待できるか

- RCT >> 観察研究 >> アンケート
- この研究の次のステップ、応用可能性をはっきり書く
- 出口戦略

## ■ 熱意

- いままで述べてきた要求に沿った書き方、準備状況、分かりやすい計画書、緻密さ、などの集大成だと思う
- 本当に研究費欲しいんだな。この人なら研究費を与えれば確実に成果を出すだろうな、と思わせる

# 経験上、低く評価するパターン（1）

- 研究の意義がやたらと長く、整理されていない
  - 目的が明確に伝わればそれでいい
  - 過去の研究の限界と解決方法のアイデアが分かればいい
- 研究の前段階の説明が長く、一番肝心のところのアイデアが練れていない
  - 介入プログラム作成の研究の場合、インタビューや調査のことが長く説明されており、「最終年度でRCTで評価する」
  - RCTの計画は？？？これが一番大事じゃないの？？？
  - 最後の1年でRCTなんて完遂出来るか（怒！！）
  - RCTは緻密であれば凄く高評価、杜撰であればすごく低評価

# 経験上、低く評価するパターン（2）

## ■ フォーマットが汚い、空白が多い

- やる気がない？ 緻密性に欠ける？ いずれにせよ成果は出せないだろう

## ■ 対象数が少ない

- プログラム評価を20人 vs 20人のRCTをするとか

# Take Home Message

- 研究費申請は技術的要素が強い
- 通った計画書を見せてもらうだけで、勉強になる
- ポイントは
  - 要求に沿う
  - 分かりやすさ
  - 緻密さ
  - 成果が期待できるか
  - 熱意
  - 能力があることを示す
- 注意：本発表は私の独断と偏見に基づくものです